SBI Liquidity Market

元邦銀ヘッドオプショントレーダー鈴木亮がわかりやすく解説

Dailyオプション戦略レポート

2019年11月21日(木)

オプション市況

昨日の東京時間のドル円は朝方に米上院が香港人権法案を可決とのヘッドラインを受けて下落。前日の安値を割り込み一時108円台前半まで売られたものの、フォロースルーなく108円台半ばまで戻して揉み合いとなった。海外時間に入ると米中通商交渉において合意範囲の拡大により合意時期が来年までずれ込む可能性があるとの報道を受けてドル円は一時108円台前半まで売られたが、値動きは限定的で再び108円台半ばまで反発しニューヨーククローズとなった。昨日0.25日分のイベント・プレミアムが乗っていた米FOMC議事録は特段目新しい内容はなく、スポットへの影響は限定的だった。スポットは108.50を挟んで水準は大きく変わらなかったが、ヘッドラインに振らされる格好でヒストリカル・ボラティリティは昨日比若干上昇。また、香港人権法案の米中通商交渉への影響が意識されてか、オプション市場では手前のダウンサイドに大口の買いが入った模様。それを受けてインプライド・ボラティリティは手前中心に上昇。また、リスクリバーサルも手前中心にドルプット高方向に傾いた。

本日はドル円の大口足が108円半ばに固まっている。昨日のスポットがヘッドラインのインパクト程動かなかったのは、この大口足がスポットを吸い寄せていた可能性がある。本日のニューヨークカットでこれら大口足が一旦きれいになるので、その後の値動きに期待か。

昨日のスポット・シミュレーションと実際のスポット推移比較

重要イベント情報 (※1)

本日はイベント・プレミアムが乗っている重要イベントはなし。

※1 SBIリクイディティ・マーケットでは重要イベントのイベント・プレミアムを日数ベースで管理しています。例えばある日本のイベントにおけるイベント・プレミアムが0.5日分の場合、そのイベントにおいて日本円を含む通貨ペアで0.5日分の値動きが出ると予想されている事を表現しています。

大口足情報 (※2)

本日はドル円に108円台半ばに大口足が観測されている。また、108円台に渡って1,000本未満の足も多く観測されており、スポットの値動きを押さえている可能性がある。主要なカットタイムは東京15時とニューヨーク10時（東京24時）のため、大口足が落ちた後にはスポットは動きやすくなるか。

※2 オプション市場で観測されている大口のストライク、及び、取引量情報。オプション市場参加者による取引の影響でスポットはオプションのカットタイム(※3)にかけて大口足に引き寄せられやすいと言われている。1本=1百万通貨単位。
（出典：Bloomberg）（スポットの値動きを保証するものではありません）
※3 カットタイムは東京15時とニューヨーク10時(東京23時(夏時間)・東京24時(冬時間))の2つが主要なものです。

11月21日(木)			11月22日(金)			11月23-24日(週末)		
イベント			イベント			イベント		
大口足			大口足			大口足		
USD JPY	108.30	994本						
USD JPY	108.40	1,070本						
USD JPY	108.50	1,250本						
EUR USD	1.1000	1,160本						
EUR USD	1.1090	1,410本						
GBP USD	1.3000	1,490本						
AUD USD	0.6850	1,880本						
USD CNH	7.0000	1,610本						

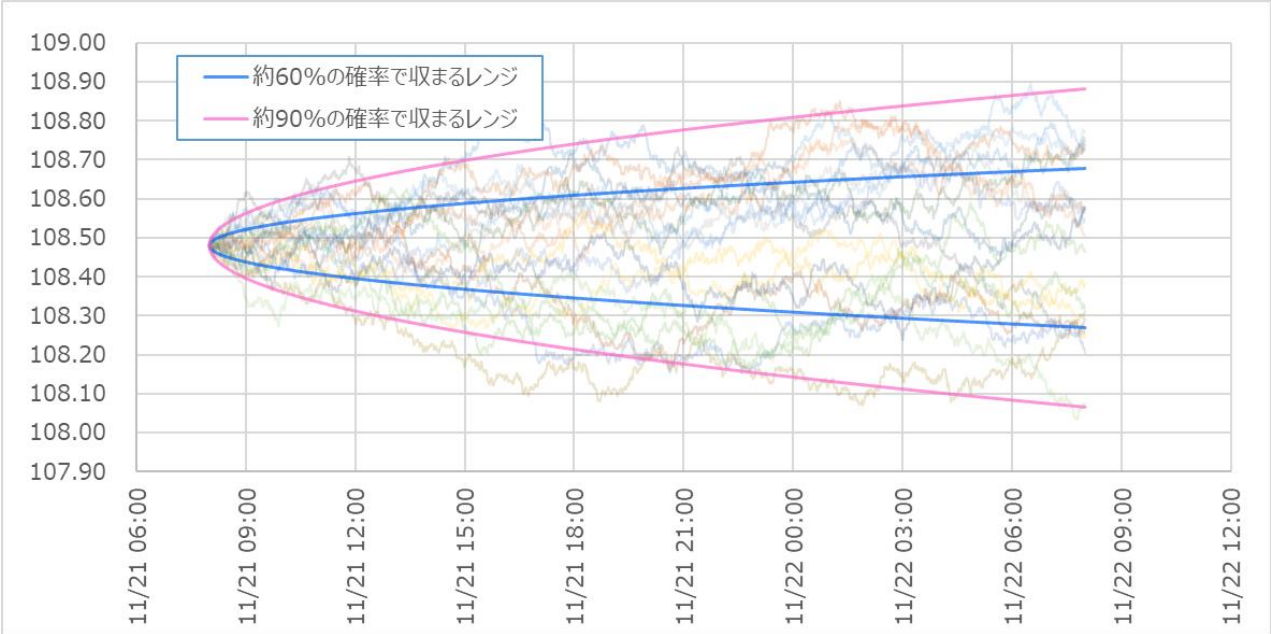
大口足が固まっており、スポットの値動きを押さえている可能性あり！
本日の東京24時までか。

スポット・シミュレーション

本日はイベント・プレミアムが乗っている重要イベントは無いため滑らかなシミュレーションになっている。インプライド・ボラティリティが上昇しているため、昨日比若干レンジの幅が広がっている。

- SBIリクイディティ・マーケットのオプション評価モデルに基づいた本日のスポット値動きのシミュレーション結果です。
- 細い線のそれぞれの色が1回のシミュレーション結果で、20回分の結果を記載しています。
- 太い線はそれぞれオプション市場から計算される、スポットがレンジ内に収まる確率を表しています。
- シミュレーション結果は実際のスポットの値動きを保証するものではありません。

ドル円（2019年11月21日8時時点・ドル円スポット108.48前提）



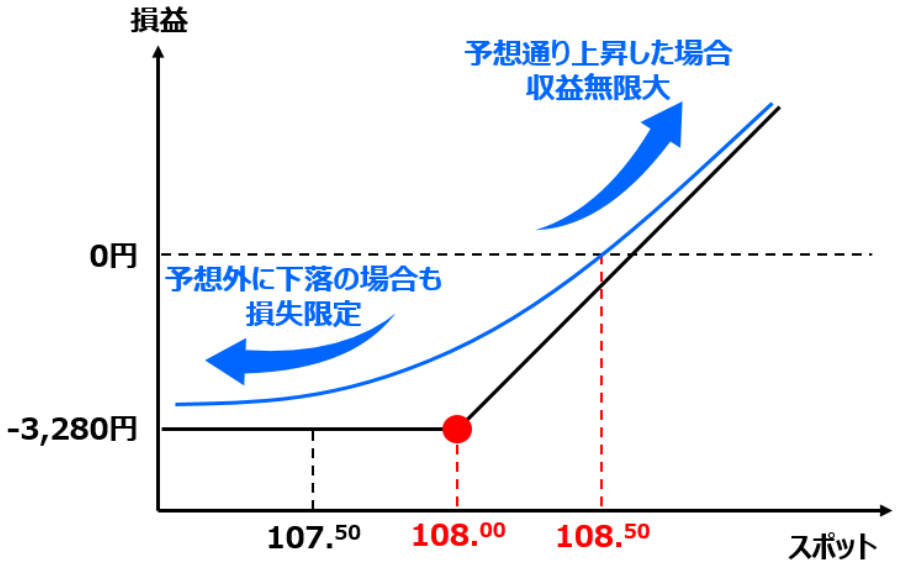
オプション戦略

本日はドル円の大口足が108円台半ばを中心に固まっており、一旦それらが消えるまではスポットの値動きは出づらいと考えている。ニューヨークカットを迎える東京24時まではイン・ザ・マネー・オプションを用いた、損失限定のレンジトレードが賢明か。

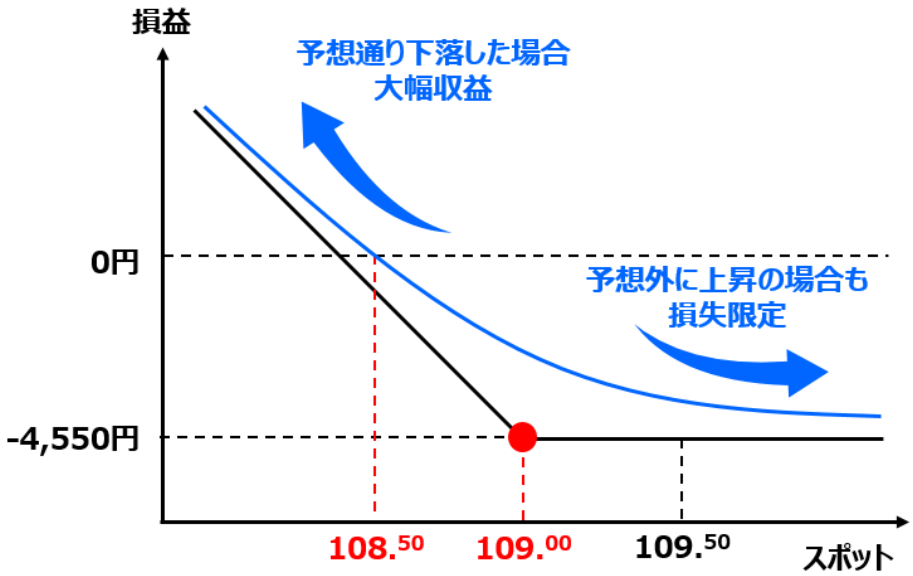
（※オプション戦略コラムは情報提供が目的であり、お客様にオプションFX取引、及び、FX取引を勧めるものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。）

（2019年11月21日8時半時点・ドル円スポット108.50前提）

12月限月　108.00ストライク　イン・ザ・マネー・ドルコールの場合



12月限月　109.00ストライク　イン・ザ・マネー・ドルプットの場合

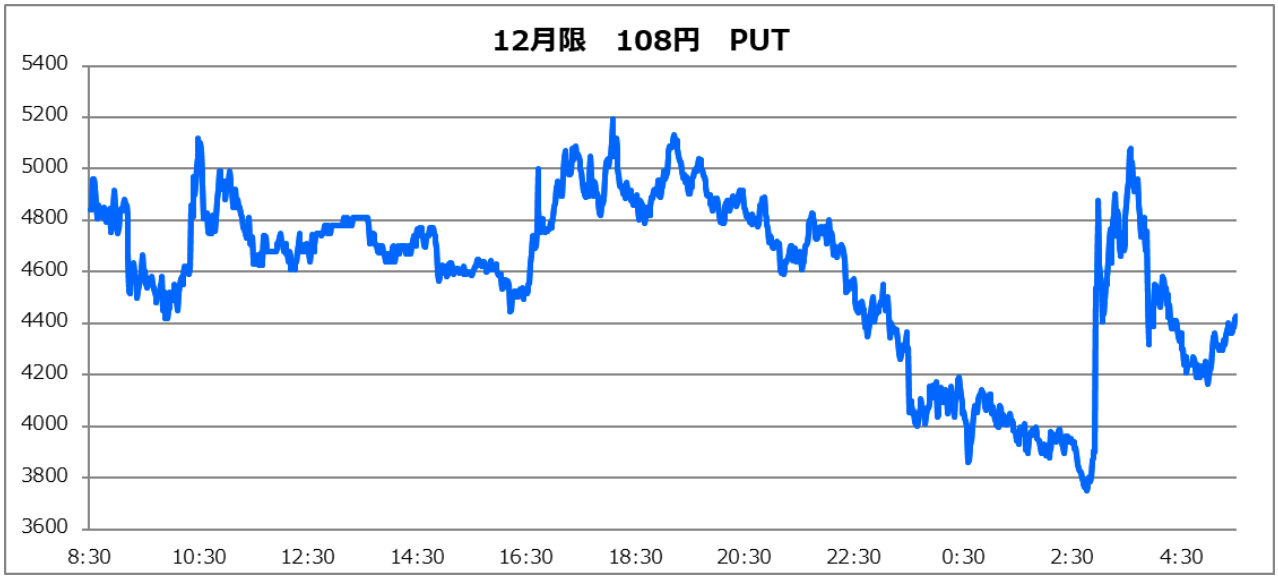


オプションFXプレミアム推移

2019年11月20日(水) 営業日取引

PUT				
権利行使価格	始値	高値	安値	終値
108.50	7,090	7,535	5,480	6,435
108.00	4,880	5,205	3,750	4,430
107.50	3,370	3,600	2,600	3,080

※新規購入サイドのプレミアム価格



CALL				
権利行使価格	始値	高値	安値	終値
108.50	4,950	6,470	4,620	5,595
108.00	7,760	9,735	7,300	8,605
107.50	11,280	13,585	10,710	12,260

※新規購入サイドのプレミアム価格

オプションFX用語集

インプライド・ボラティリティ – インターバンク市場でオプション取引に使用される価格変動率。オプションの価値算出に使用されるパラメーターで、ヒストリカル・ボラティリティが過去の値動きの価格変動率なのに対し、インプライド・ボラティリティは**将来の値動き**を市場参加者が予想した価格変動率になる。

ヒストリカル・ボラティリティ – スポットの**過去の値動き**から計算される価格変動率。将来の価格変動率の予想値であるインプライド・ボラティリティを求める際の参考値となる。インプライド・ボラティリティは将来マーケットクラッシュなどが起きる可能性を含んだリスクプレミアムが乗っているため、ヒストリカル・ボラティリティより高くなりがち。

リスクリバーサル – リスクリバーサルは、もともとオプションの取引手法の名前。一般的には行使期日、想定元本、デルタが同じ OTM(アウト・オブ・ザ・マネー)のコールとプットを反対売買する取引のこと。スポットの値動きが単純なランダムであれば、コールとプットのインプライド・ボラティリティは同じになるはずだが、実際の市場では同じにならない。市場の需給や相場観を反映し、インプライド・ボラティリティに差が生じるため、**コールからプットを引いた差分**をリスクリバーサルと呼ぶ。例えば、リスクリバーサルがドルコール（上サイド）の高くなる方向に動いたとすると、オプション市場が将来ドル円スポットの上昇する確率が高くなったと考えていることを表している。

ストラドル – **同じストライクのドルプットとドルコールを同時に購入**することで、上下どちらにでも大きく動けば収益が上がるポジションを作ることができ、ストラドルと呼ばれる。将来の価格変動率の予想であるインプライド・ボラティリティが、自分の予想する値動きよりも小さいと思う際にはストラドル購入によって収益を狙う。インターバンクでは逆に同時に売却することもある。

イベント・プレミアム – 米雇用統計などの重要イベントに対して、インプライド・ボラティリティからどの程度の価格変動が織り込まれているかを計算することができる。その**特定イベントによって追加される価格変動**をイベント・プレミアムと呼ぶ。SBI リクイディティ・マーケットではイベント・プレミアムを**日数ベース**で管理している。

デルタ – デルタは**スポットの動き対するオプションの価値変動を表したリスク・パラメーター**。1つのオプションに注目した場合、そのオプションが持つデルタは、基本的にオプションの取引量に対して0%～100%の間の値を取る。例えば、100枚のドルコールオプションを買い、デルタが50%だった場合、50枚分のスポットを持っているのと同じ値動きをすることを表す。

その他の用語解説は HP 上にあるオプション FX の用語一覧をご参照ください。

バックナンバー

バックナンバーはHP上にあるオプションレポートバックナンバーをご参照ください。

筆者略歴

鈴木 亮（Ryo Suzuki）

SBIリクイディティティ・マーケット株式会社 経営企画部 部長

SBIリクイディティティ・マーケット株式会社の経営企画部長として情報発信や新商品開発を通してオプションFXのビジネス拡大に努める。2009年、三菱東京UFJ銀行（現、三菱UFJ銀行）入社、以来約10年間通貨オプショントレーディング業務に従事。約4年間のニューヨーク勤務を経て、ヘッドオプショントレーダー就任。2019年より現職。

※お客様は、本サービスで表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、 複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。

※情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。 また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社は一切の責任を負いません。

※本サービスは、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。